

# 第 26 回 関西アルコール関連問題学会 奈良大会

## プログラム

一緒に **なら**、うまくいく

～依存症への関心の広がり・支援・連携の広がり～

【開催日】 2019（令和元）年 12 月 21 日（土）～ 12 月 22 日（日）

【会場】 21 日（土）東大寺総合文化センター

22 日（日）奈良春日野国際フォーラム・麓

【主催】 関西アルコール関連問題学会

【後援】 奈良県 奈良市 奈良県社会福祉協議会 奈良市社会福祉協議会 奈良県精神科病院協会  
奈良県精神科診療所協会 奈良県医師会 奈良県看護協会 奈良県看護技術協会  
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会関西支部 奈良県介護支援専門員協会  
奈良県臨床心理士会 奈良県精神科ソーシャルワーカー協会 奈良県介護福祉士会  
関西アルコール看護研究会 奈良県訪問看護ステーション協議会  
奈良県断酒連合会 奈良いのちの電話協会

【申し込み】 ホームページ <https://va.apollon.nta.co.jp/arukanren26/> から申し込んで下さい

事前登録参加費：会員 3000 円 非会員 4000 円

事前登録期間：11 月 22 日（金）まで

（この期間以降の申し込みは、会員 4000 円、非会員 5000 円になります）

第 26 回関西アルコール関連問題学会奈良大会 事務局：八木植松クリニック  
〒634-0078 奈良県橿原市八木町 1-7-3 かしはらビル 5F  
Tel:0744-25-8620 Fax:0744-25-8622



# スケジュール



## ●12月21日(土) 会場：東大寺総合文化センター(地下1階)

受付：9：30～

【ワークショップ】①②ともに 10：00～16：00 別途参加費用が必要です

- ① 「明日から使える動機づけ面接法」(定員 100名) 別途参加費 2000円  
司会：奥田 由子 (守山こころのクリニック・大津市保健所 公認心理師/臨床心理士)  
講師：後藤 恵 (翠会ヘルスケアグループ精神医学研究所副所長・  
東京医科歯科大学非常勤講師 医師)
- ② 「依存症の自助グループ完全理解のワークショップ」(定員 50名) 別途参加費 1000円  
コーディネーター：坂本 満 (リカバリハウスいちご)  
亀ノ上 美郷 (新阿武山病院 精神保健福祉士)  
話題提供者：各自助グループメンバー

## ●12月22日(日) 会場：奈良春日野国際フォーラム・麓

受付：9：30～ 開会式：9：50～

【分科会】①～⑤ともに 10：00～12：30

- ① 事例検討会を通して深めよう、アルコール関連問題の理解と支援の輪  
ファシリテーター：日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会関西支部  
関西アルコール看護研究会
- ② 依存症相談拠点機関と治療拠点機関の取り組み～近畿府県からの発信～  
話題提供者：近畿の各相談拠点機関・治療拠点機関
- ③ 女性の依存症と子どもとの関係  
話題提供者：医療・福祉・子育て支援専門職・自助グループメンバー
- ④ アルコール関連問題の支援から考える8050問題  
話題提供者：医療・福祉・介護の専門職
- ⑤ もっと家族支援を考える  
話題提供者：医療・福祉・自助グループメンバー

【市民公開講座】13：30～16：30 座長：植松 直道 (植松クリニック院長)

- ◇ 「本当の依存症の話をしよう～つながりの病としての依存症～」  
松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長)
- ◇ 「大阪における依存症治療の変遷～再度大阪方式を考える～」  
辻本 士郎 (ひがし布施クリニック院長)

閉会式 16：30～



# 会場地図



**アクセス**  
 ●東大寺総合文化センター  
 JR 近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環外回りバス」5分で「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、徒歩5分  
 ●奈良春日野国際フォーラム・薨  
 「春日大社本殿」行き「奈良春日野国際フォーラム薨前」下車すぐ、  
 または「市内循環外回りバス」5分で「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、大仏殿交差点東へ徒歩3分



## 一日目ワークショップ



●12月21日(土) 10:00~16:00 会場: 東大寺総合文化センター(地下1階)

### ワークショップ①

### 『明日から使える動機づけ面接法』～基礎から応用まで～

支援者として、相手を変えようとするほど、かえって抵抗や否認を強めてしまった苦い経験はありませんか?

人が変わってゆく過程を援助する技法としての「動機づけ面接法」は、問題飲酒へのアプローチから生まれ、「直面化」中心だった依存症の治療に革命をもたらしました。今では依存症領域だけでなく、医療・保健・福祉・司法・教育などの対人援助職が学ぶべき基本的な面接技法として、ようやく日本でも普及しつつあります。

関西アルコール関連問題学会では、2011年から講師に後藤恵先生(ミラーとロルニックの著書「動機づけ面接法」「動機づけ面接法実践入門」の翻訳者)を迎え、ワークショップを開催してきました。「わかりやすい」「すぐ使える」と大好評で、要望に応じて継続的に開催してきましたが、とうとう今回は7回目となり、本学会では最後の機会となるかもしれません。

面接技法は、繰り返しの練習が必要です。初めて学ぶ方だけでなく、リピーターの方も一緒に実践的なロールプレイを楽しみましょう。

司会：奥田 由子（守山こころのクリニック・大津市保健所 公認心理師/臨床心理士）

講師：後藤 恵

（翠会ヘルスケアグループ精神医学研究所副所長・東京医科歯科大学非常勤講師 医師）

定員：100名（先着順）

別途参加費：2000円（学会参加費に加えて、ワークショップ参加費として必要です）

## ワークショップ②

### 『依存症の自助グループ完全理解のワークショップ』

このワークショップに参加を予定している自助グループはAA、断酒会、NA、GA、ACA（A  
Cのアノニマスグループ）であります。

このワークショップのプログラムは2部に分けて行うことを予定しております。1部では司会者からテーマを出させていただいて、各グループの方にグループの紹介を兼ねて話していただきます。今までは毎回グループの紹介だけに終わってしまっていたので、今回はより内容を深めて話していただきます。そして2部では参加者の方にいくつかのグループに分かれていただき、自助グループの方も各グループに参加していただきます。そしてあらかじめグループの司会者を決めておきます。その方をお願いしてある2、3のテーマで自助グループの方に話していただきます。それ以降は参加者の方の質問に答えていただく形式をとりたいと考えております。

なにぶん初めての試みなので、多少の不安はあります。しかし、今回は普段は自助グループの方に聞くのはかなり失礼なことと思いがちなことを聞いてみたいと思っております。例えば「あなたはどのようにして〇〇依存症になったのですか？」「どのようにして止めることが難しかったのですか？」「あなたの物の考え方に問題があったのですか？」などなど。より深い依存症と自助グループを理解するための助けになるワークショップを考えております。知識としてよりも「体験から学ぶ」ワークショップを目指しております。

コーディネーター

坂本 満（リカバリハウスいちご 精神保健福祉士）

亀ノ上 美郷（新阿武山病院 精神保健福祉士）

話題提供者：各自助グループメンバー

定員：50名（先着順）

別途参加費：1000円（学会参加費に加えて、ワークショップ参加費として必要です）



二日目 分科会



開会式 9:50~10:00

●12月22日（日）10:00~12:30 会場：奈良春日野国際フォーラム・薨

【分科会①】「事例検討会を通して深めよう、

アルコール関連問題の理解と支援の輪」

各都道府県でアルコール健康障害対策基本法推進計画の策定が進められるなか、さまざまな飲酒や薬物など依存症に関する社会問題に焦点があてられることで、少しずつ依存症という疾患の理解も進んできているものと思います。また、それぞれの現場では依存症問題の直面化の在り方を見直し、ハームリダクションの理解も深まり、依存症支援のアプローチそのものが大きく変革しているといえます。そしてまた、依存症からの回復への重要な一因として当事者と支援者、また当事者同士、支援者同士の関係性の重要性も改めて確かめられています。

しかし実際は、依存症というその病気の性質上、なかなか回復への糸口を見出すことができずに入退院を繰り返すことや治療継続できないこと、治療そのものに繋がることができないということもこれまでに変わらずにみられています。

今回、いくつかの困難な事例をもとに、支援の方針を見出すという限定した視点ではなく、「当事者」「支援者」「当事者・支援者関係」「支援状況」という切り口で螺旋的に検討を重ねていき、複雑に絡み合った問題を解きほぐしながら、アルコール関連問題について、依存症の支援についての理解を深めていくことを目的とします。

むずかしい理論や理屈ではなく、些細な気がかりや違和感などを出し合い、それぞれの現場で見落とされていたことの振り返りや、たくさんの参加者の価値観をすり合わせながら検討会をもつことにより、それぞれの支援の支えになること、参加者同士の支援の輪を結び、連携を深められる場となればと思います。アルコール関連問題、依存症問題に関心のある方や、実際の現場で対応に悩んでおられる方など、どなたでも参加いただければと思います。

ファシリテーター	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会 関西支部 関西アルコール看護研究会
司会	杉山 昌儀 (いわくら病院 看護師) 緒方 聡美 (ハートランドしぎさん 地域連携室 精神保健福祉士)

## 【分科会②】「依存症相談拠点機関と治療拠点機関の取り組み ～近畿府県からの発信～」

平成 26 年に始まった厚生労働省による依存症対策により、各都道府県に相談あるいは治療の拠点機関が設置されることとなった。さらなる依存症対策の発展には他府県との情報交換が欠かせないが、近畿府県の相談拠点機関と依存症治療拠点機関が集まる場はない。

近畿府県計画の発展に繋げる“きっかけ”として、本分科会を開催する。

司会	北田 最映 (吉田病院 地域連携相談室 精神保健福祉士) 倉橋 桃子 (大阪精神医療センター 医療福祉相談室 精神保健福祉士) 佐藤 周 (滋賀県立精神医療センター 精神保健福祉士)
話題提供者【大阪府】	籠本 孝雄 (大阪府こころの健康総合センター所長 医師)
【兵庫県】	宮田 尚美 (垂水病院 医務課 係長) 岸本 和美 (兵庫県立精神保健福祉センター 精神保健福祉専門員)
【滋賀県】	濱川 浩 (滋賀県立精神医療センター精神科部長 医師) 後藤 有加 (滋賀県立精神保健福祉センター 精神保健福祉士)
【京都府】	須堯 麗子 (いわくら病院 精神保健福祉士)
【奈良県】	田中 考子 (奈良県精神保健福祉センター 相談指導教育係 係長) 調整中 (吉田病院)

## 【分科会③】「女性の依存症と子どもとの関係」

女性のアルコール依存症の方々の悩みは多岐にわたる。依存症であることで周囲の人たちからの偏見や誤解。女性であることのしんどさ。女性特有の病気。家族との問題など。そしてその中でも、子どもを持つ女性にとっては子どもとの問題が必ずと言っていいほど含まれている。

お酒を飲み続けて子どもをほったらかし、育ててこなかった、関わって来なかったことへの自責の念。そこから断酒して関係性を築いていく事の難しさ。さらにスリップをした後にもう一度と関係を築いていくとなるとさらにしんどさは増すだろう。例えば子どもと関係性を築きなおせたとしても、その先付き合っていく中での子どもへの遠慮や自責は取れないという話も聞く。そのような問題に向き合い続けている女性の依存症者は多くいる。

今回の分科会ではそのような女性の依存症者のしんどさを数名の方々に体験談の中で語っていただく。子どもへの思い、どう関係を再構築してきたか、しんどさや希望などを語っていただきたいと考える。そして、実際に子どもとの関係で苦しんでいる依存症者の支援をしている方々にお話を聞き、支援の中での気づきや取り組みを事例も含めながらお話しいただき、これからの支援の発展や連携に繋げていきたい。また、会場からの意見や質問、感想も取り入れながら、参加者全員で学んでいく分科会にしたいと思う。

司会	佐古 恵利子	(リカバリハウスいちご 精神保健福祉士)
	大西 英周	(阪和いずみ病院 医師)
話題提供者	①黒岡 紀久子	(ひがし布施クリニック 精神保健福祉士)
	②内田 扶喜子	(兵庫県尼崎市こども青少年部こども政策課 精神保健福祉士)
	③中道 武子	(大阪府断酒会・大阪市断酒連合会住之江断酒会 アメシスト)
	④北見 敏子	(滋賀県断酒同友会 アメシスト)

## 【分科会④】「アルコール関連問題の支援から考える 8050 問題」

今回の高齢者分科会では、近年介護現場で問題になっている「8050 問題」への対応について、アルコール関連問題の支援をとおして考えていきたい。「8050 問題」の子ども世代が引きこもる原因に、アルコール関連問題が認められる場合があり、引きこもり支援や介護関係者がまず接することになるが、アルコール問題を抱える家庭では複雑化した家族関係が長期に渡って固着し、介入に難渋することも少なくない。

背景にアルコール依存症などのアルコール関連問題がもつ「8050 問題」の早期発見・初期対応と、固着した家族関係への介入の方法について、支援者とアルコール関連問題の支援の基本を振り返りながら、一緒に考えていきたい。

司会	笹川 智司	(奈良市保健所)
話題提供者	① 廣兼 元太	(広兼医院 医師)
	② 後藤 文造	(奈良県社会福祉協議会 社会福祉士)
	③ 奈良市地域包括支援センター職員	(調整中)

## 【分科会⑤】「もっと家族支援を考える」

平成 26 年 6 月に施行された「アルコール健康障害対策基本法」。その中では、不適切な飲酒によって引き起こされる健康問題や社会問題について、国や自治体、医療関係者などの責務

を初めて明記し、対策を総合的かつ計画的に推進することが宣言されている。

しかし、飲酒による健康問題や社会問題を抱えた本人が相談に来ることは少なく、問題に真っ先に気づき、心配して相談に来るのは家族であることが多い。

相談に来た家族に、行政、福祉、医療、自助グループは何ができるのか。今後さらに何が必要なのか。それぞれの立場から話題提供してもらい、家族支援について理解を深めたい。

司会	東元まさみ（奈良県中和保健所 保健予防課 精神保健係）
	山本 哲也（小谷クリニック 精神保健福祉士）
話題提供者	①西川 京子（新阿武山クリニック）
	②吉田 かおり（宇陀市医療介護あんしんセンター）
	③奈良県断酒連合会 家族会（依頼中）



## 二日目 市民公開講座



【市民公開講座】12月22日（日）13：30～16：30

会場：奈良春日野国際フォーラム・薨 能楽ホール

司会 和気 浩三（新生会病院院長）



「本当の依存症の話をしよう ～つながりの病としての依存症～」

松本 俊彦（国立精神・神経医療研究センター  
精神保健研究所薬物依存研究部部長）



「大阪における依存症治療の変遷～再度大阪方式を考える～」

辻本 士郎（ひがし布施クリニック院長）



松本先生と辻本先生の対談

座長：植松 直道（植松クリニック院長）



閉会式 16：30～